

第111期株主通信

2022年4月1日－2023年3月31日

小松マテール株式会社

証券コード 3580



komatsumateRe



**社会にとって真に価値ある企業へ。
小松マテールは感動の創造を通じて、
世界を舞台に成長し続けます。**

日頃の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

世界経済や社会生活に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ始めています。行動制約が緩和に向かう中、昨年2月に勃発した国際的な紛争の影響で原燃料の価格高騰から世界的なインフレ、加えて日本では円安が企業コストの大幅な上昇を招き、国内製造業にとって過酷な年となりました。

このような事業環境において、当社は原燃料のコスト上昇を吸収するトータルコスト低減活動を継続するとともに、環境に配慮した新商品などの提案を通じて攻めの販売活動を展開し、市場回復の需要の取り込みと新たな需要創出を図りました。いまだ楽観視できる状況ではありませんが、新たなスタートを切った新年度においては、傷んだ収益構造を補強し、高収益体質の獲得に注力する所存です。社会に真に貢献する企業を目指し、挑戦を続けてまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2023年6月
代表取締役社長

河本 久衛

当期の業績とその背景

Q1 コロナ禍のトンネルからようやく抜け出しそうな気配です。小松マテレーレにとってどのような1年でしたか。

佐々木：コロナ禍の影響が残る中ではありましたが、営業活動は期初から全開で、国内外において積極的な対面営業を開始しました。その結果、売上高は前期比2桁の増収を達成しました。一方で、国際的な紛争の影響もあり原燃料、資材価格の高騰から企業コストが大幅に上昇し、収益が圧迫されました。

期初の計画段階で、これらのコスト上昇は見込んでいましたが、予測

を超え、期初のほぼ倍のコスト上昇幅となりました。

これに対し、販売数量の拡大、販売価格の見直し、トータルコストの削減などで、コスト上昇分の8割以上を吸収し、さらに関連会社の事業改善など、当社グループの総力により営業利益は前期を上回る着地となりました。経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益は、今後の為替リスク回避のため未決済為替予約取引の全部を解約したこと、および、前期の大きな特益要因の影響により、前期比で減少しましたが、いずれも一過性のもので今期の業績に影響するものではありません。

Q2 売上げは確かに伸びていますが、国内より海外の伸びの方が大きい理由は……。

佐々木：売上げの95%を占める繊維事業は、全体で+12.9%と堅調に伸長しました。ファッションやスポーツ等からなる衣料ファブリックが+18.1%と大きく伸び、医療・福祉、生活関連からなる資材ファブリックも+1.4%の増加となりました。

国内と海外では、国内が前期比+2.6%の増加に対し、海外は+31.8%と大幅に増加し海外需要の取り込みが進みました。海外は、この10年で最高の売上げとなりました。特に、欧州ラグジュアリーブランド、北米カジュアル分野および中東向け

ハイライト

2023年3月期業績

売上高	35,438百万円
営業利益	1,605百万円
経常利益	1,683百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,118百万円

会社の対処すべき課題

- ①持続可能な社会の実現に向けた環境配慮への取り組み
- ②海外への事業拡大と開発体制の強化
- ③コストアップへ対応するための収益構造の改善

民族衣装で高い伸び率を達成しました。

海外衣料が伸びた理由は、当社の付加価値技術を活かした環境配慮型素材や高機能・高感性素材の提案が市場のニーズにマッチし、魅力のある素材として受け入れられたことによるものです。

資材は成長分野として車輛向けの開発に取り組みました。現時点でスベックイン作業を終え、新年度から本格生産に移行しましたので、今後、事業貢献が期待いただけます。

社会の変化を踏まえて

Q3 “持続可能性”が社会のトレンドになっています。小松マテレではどのようにして事業に取り込んでいますか。

佐々木：当社では環境にやさしい原料選びとエコで高機能な加工技術の開発に力を注いでいます。

2022年5月の東京総合展では、環境対応素材の冠ブランドとして「mateReco（マテレコ）」を立ち上げ、同時に環境配慮型の4つの新素材を発表しました。

これらの新素材には、バイオ由来の原料や有害化学物質の少ない加工剤

を用いて機能性を付与する、環境にやさしい加工技術を活用しています。さらに、これらの加工剤では、これまで難しいとされてきた高い機能性も維持しています。

今後も引き続き、「mateReco」ファミリーの拡充に努めます。

また、製品の展開とは別に各種環境認証の取得も進めています。一昨年、RCS（リサイクル・クレーム・スタンダード）の認証を取得しましたが、本年5月にはブルーサイン（調達、製造、販売における持続可能な手法）の認証取得も予定しています。

Q4 環境への対応も重要になっています。温室効果ガスの削減、水の削減、有機化学物質の削減などの進捗は……。

佐々木：2020年度に策定した「小松マテレ・サステナビリティ・ビジョン」に基づき、①気候変動対策、②循環型社会づくりへの貢献、③人々の感動の創造、④防災・減災への取り組み、⑤地域貢献と社員の成長、の5つの行動目標を掲げ、取り組みを進めています。

①～③の環境課題は2013年を起点に2030年までに達成すべき目標

を設定しており、「気候変動対策」ではCO₂を46%以上削減、「循環型社会づくりへの貢献」では水を25%以上削減、廃棄物を70%以上削減、有機化学物質を30%以上削減に向け取り組んでいます。「人々の感動の創造」では環境配慮商品（mateReco）の売上高50%以上を行動目標としています。

特にCO₂削減は国際的な枠組みの中で2050年にカーボンニュートラルの実現に向けて各国がガイドラインを設定して取り組まれています。当社では、工場での省エネ、低炭素燃料への転換、生産効率化やロス削減を先行し、製造時に低エネルギーで加工・生産できる革新的な素材や設備開発に取り組むマスター計画を設定し、日本政府の指針である2030年CO₂削減46%の実現を目指します。地球市民として誠実に責任を果たしてまいります。

新しい価値を社会に発信

Q5 コロナ後をにらんだ動きが加速しています。販売促進につながる展示会なども積極的に進めているようですが。

佐々木：新型コロナウイルス感染拡大からの2年間は、イベント・展示会は開催できませんでした。この1年は国内外で展示会を再開し、顧客やマーケットに対して新製品や新技術を積極的に発表・PRし、大きな手応えを感じています。

12月に開催した東京総合展では、製造部と営業のコラボレーションによる社内の技術コンテスト「RE-CREATION」を前面に押し出し、お客様から「新鮮な提案だ」と評価されました。

今期は、素材提案を充実するため、欧米・中国・韓国をはじめ国内外で、30回の展示会・個展を計画しています。

変化をリードする人材を育てる

Q6 成長を占ううえで人材がカギとされています。人材採用とその後の教育にはどのように対応されていますか。

佐々木：本年は46名の新卒者を採用しました。将来に備えるためです。

近年、人材を「資本」ととらえ、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる

「人的資本経営」に注目が集まっています。かつてパナソニック創業者の松下幸之助氏は、「企業は人なり」＝「物を作る前にまずは人を作れ」と言われましたが、これが基本だと考えています。

当社にも教育制度はありますが、これまでは知識と経験を伝えることに重きを置いていました。教育は受け身ではなく、主体的な“学び”と“実践”が必要です。今、当社では若手の自主性と主体性を尊重した社内研修や開発コンテストを展開しています。自ら学び、考え、発信し、実践して成果を事業に取り込んでいく流れの中で、若手社員の成長を図っています。

Q7 新たな1年がスタートしています。今の課題を3点に絞ってお聞かせください。

佐々木：1つめは「収益構造の正常化」です。昨年原燃料や一般資材の価格高騰で変動費が上昇し、限界利益が圧迫され、収益構造が傷みました。コスト削減は手を緩めませんが、企画提案・開発力を駆使して高付加価値化の推進が必要です。量から質への転換がポイントです。



2つめは「中長期の方向性を明確にすること」。国内と海外を比べると“伸びしろ”は海外にあります。ブランドや価値の価格転嫁に対して理解があり、採算性も高い欧米を中心とした海外事業の強化を急ぎます。

3つめは「新事業の創出」です。当社は主力のファブリック事業以外に環境に貢献する技術開発に取り組んできました。一例ですが先般、自治体や企業の排水処理設備から排出される汚泥を最大100%減容するバイオ製剤「ベリフォーマー®」を開発しました。社会ニーズに沿った有望かつ高収益な新事業として育てます。

株主の皆様には厳しい事業環境の中であって、当社の事業にご理解をいただき、心より感謝申し上げます。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 着実な進化を続ける小松マテールグループのサステナビリティの実現に向けた取り組み

私たちが暮らす社会は、環境問題（気候変動）・豪雨や地震などの自然災害への対応・人権問題・さまざまな感染症など今も数多くの課題を抱えています。

小松マテールグループは、1999年に地球環境の保全に向けた「環境管理宣言」を策定し、環境保全と環境づくりに努めてきました。そして、2020年度からはSDGs(持続可能な開発目標)に沿って、グループが目指す取り組みを5つの項目に整理・統合した『小松マテール・サステナビリティ・ビジョン』に発展させてきました。今回は5つの行動目標から「循環型社会づくりへの貢献」と「人々の感動の創造」における取り組みをご紹介します。

小松マテール・サステナビリティ・ビジョン



I 気候変動対策



II 循環型社会づくりへの貢献



III 人々の感動の創造



IV 防災・減災への取り組み



V 地域貢献と社員の成長



紹介動画

目的	重点項目	達成目標(2030年度)
<p>II 循環型社会づくりへの貢献</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  </div> <div style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  </div> <div style="background-color: #f1c40f; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div> <div style="background-color: #27ae60; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>  </div> </div>	<p>〔廃棄物の削減〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイオ製剤による排水処理汚泥の減容化 ・ 繊維くずのアップサイクル ・ 加工方法の変更による廃棄物削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物(廃棄物量原単位)を70%削減 ・ 廃棄物のリサイクル率(埋立処理削減)を98%以上に引き上げ
<p>III 人々の感動の創造</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  </div> <div style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>12 つくって責任 つかう責任</p>  </div> <div style="background-color: #27ae60; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境配慮商品を拡大する ① 製品時のエネルギー・水・廃棄物の少ない製品の開発・拡販（速染糸） ② バイオ由来の素材・薬品による製品の開発・拡販 ③ 化学薬品管理を徹底し、有害化学物質の少ない製品の開発・拡販（非VOC、非フッ素） ④ 抗ウイルス素材の開発・拡販 ⑤ 環境負荷低減に寄与する製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上比率を50%アップ

<SDGsとは> SDGsは、Sustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」と呼ばれる。2015年の国連サミットですべての加盟国が合意し、2030年までに「だれ一人取り残さない」社会を目指して、17の目標と169のターゲットを設定している。

<サステナビリティとは> 「持続可能性」と訳される。「維持する」の意味を持つsustainが語源で、自然環境に悪影響を与えず、人間の活動が維持・持ちこたえることを表す。

具体的な取り組み

● 余剰汚泥の減容化事業に参入

排水処理の過程で大量に発生する余剰汚泥を最大100%削減できるバイオ製剤「ベリフォーマー®」を開発。この春から本格的な事業化を進めます。

自治体や企業の排水処理施設では、一般的に活性汚泥法により、微生物の力で排水中の汚れを浄化します。一方で寿命を終えた微生物は自然に分解されるスピードが遅いため、余剰汚泥となり、産業廃棄物として処理されています。

当社では、自社工場で、バイオ製剤「ベリフォーマー®」を処理槽に添加したところ、年間4,300トン発生していた余剰汚泥を100%減容させることが実証できました。石川県小松市の排水処理施設でも同様に100%の汚泥減容を達成しています。今後も余剰汚泥のゼロ化を通し、循環型社会づくりへの貢献に取り組めます。



● 人気シリーズに新ラインアップ「テクノビンテージ® KK」が誕生

テクノビンテージシリーズに、高い形状記憶性と独特なハリ・コシ感を持つ「テクノビンテージ® KK」がラインアップしました。お客様の声を受けて、“機能加工技術との組み合わせ”が容易なポリエステル100%の素材とし、加工時の工程数を増やさず、化学薬品の使用も抑えるなど環境に配慮しました。撥水、帯電防止、吸水速乾、抗菌防臭、制菌などの機能が付けやすくなり、ファッション、スポーツ・カジュアル、鞆など多彩な展開が可能です。12月の発表前に欧州や北米の主要取引先に覆面ブランドとして提案したところ、数社からサンプルオーダーをいただきました。初年度1億円（10万メートル）、3年後5億円（25万メートル）の受注を目指します。



● 技術コンテストの成果が一堂に「東京総合展 ~ 鯨起 ~」開催

北陸に冬の到来を告げる“鯨起”。出世魚と呼ばれるブリを誘い出す、雷を指す季語です。冬の風物詩である“鯨起”にちなんで、12月に東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLで、「東京総合展~鯨起~」を開催しました。今回は社内の技術コンテスト「RE-CREATION」から生み出された新作コレクションをメインに約200点の素材を展示。小松マテールグループ内の6つの製造部の特色が反映されたユニークな素材が並びました。生産・技術に携わる技術者の視点と営業のアイデアを生かした新しい商品の展示は、当社では初の試みとなりました。多くのお客様に当社の開発意欲とその質の高さをアピールしました。



● 連結業績セグメント別の概況

○ 衣料ファブリック部門

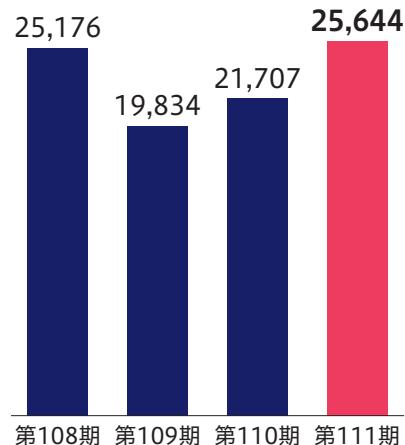
売上高

25,644百万円

前期比 18.1%増

衣料ファブリック部門に関しては、国内外において、高感性・高機能素材、環境配慮型素材の開発と市場導入を進めてまいりました。特に、欧州ラグジュアリーブランドおよび北米向けカジュアルウェアが牽引したことに加え、中東向け民族衣装分野においては市場回復とともに機能商品を積極的に導入し、前期比大幅増となりました。また、国内向けについても堅調に推移したことから、当部門全体としては増収となりました。

(単位:百万円)



環境配慮型素材に関心と期待が

コロナ禍を経て、海外での展示会が再始動しています。アジアでは、韓国・ソウル個展に続き、中国・上海個展を開催しました。特にソウル個展では、形状記憶素材「テクノベンテージ®KK」やラミネート素材「サイトス®GR」などの環境配慮型素材に注目が集まり、ファッション・スポーツブランドからは、当社の高次加工に対し高い評価を頂きました。さらに、ドイツ・PERFORMANCE DAYSでは、植物の天然成分を配合して染めた「オニベジ®」や「KONBU®」など、全体的にストーリー性があるもの、素材感に特徴がある製品に評価を頂きました。

これからも、海外での展示会を継続し、「KOMATSUブランド」のさらなる訴求を行っていきます。



韓国・ソウル個展



中国・上海個展



ドイツ・PERFORMANCE DAYS

風船をモチーフにしたアウターに

1月に開催されたパリコレクションで、日本のストリートブランド「doublet (ダブルット)」のアウターに、当社の特殊ラミネート素材が採用されました。ゴムを生地にしたようなユニークな質感とストレッチ性はそのままに、高い防水性と透湿性を兼ね備えた機能性が魅力です。



※セグメント別の売上高の集計方法を第109期より変更しております。

○ 資材ファブリック部門

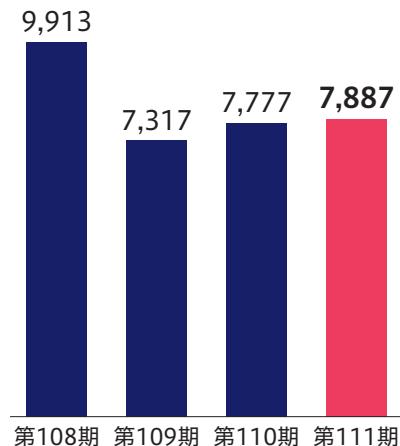
売上高

7,887百万円

前期比 1.4%増

資材ファブリック部門に関しては、電材および化粧品用途、雨具などの生活関連資材の伸びにより、当部門全体として堅調に推移し、微増となりました。

(単位:百万円)



西九州新幹線の「全周ホ口」にラミネート素材が採用

過酷な気象条件の下、高速で走る新幹線。車両の連結部分を覆う「全周ホ口」には、走行時の激しい動きにも耐える弾力性と強靱性が求められます。昨年9月に開業した西九州新幹線のN700S



かもめの「全周ホ口」に当社の多層ラミネート素材「DIMA®-3S (ディマ・スリーエス)」が採用されました。これまでの東海道、山陽新幹線での採用実績が評価されたものです。



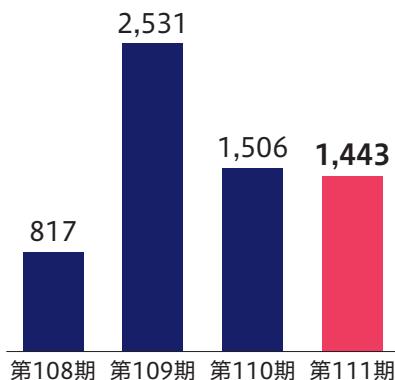
○ 製品部門

(単位:百万円)

売上高

1,443百万円

前期比
4.2%減



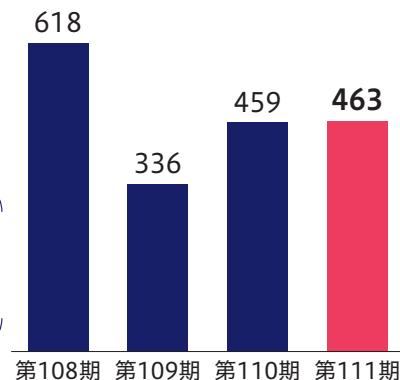
○ その他の事業

(単位:百万円)

売上高

463百万円

前期比
1.1%増

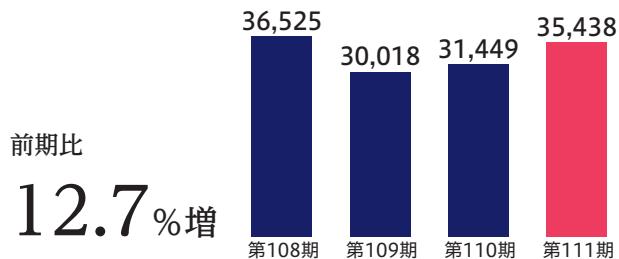


※セグメント別の売上高の集計方法を第109期より変更しております。

● 連結財務ハイライト

○ 売上高

35,438百万円 (単位：百万円)



○ 経常利益

1,683百万円 (単位：百万円)



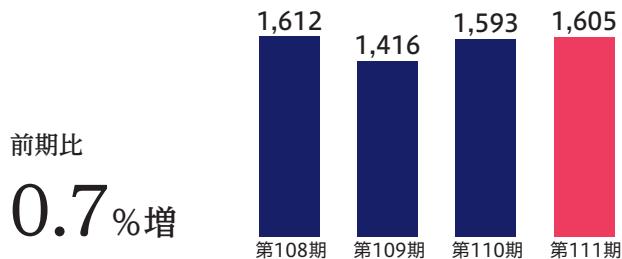
○ 1株当たり当期純利益

27.86円 (単位：円)



○ 営業利益

1,605百万円 (単位：百万円)



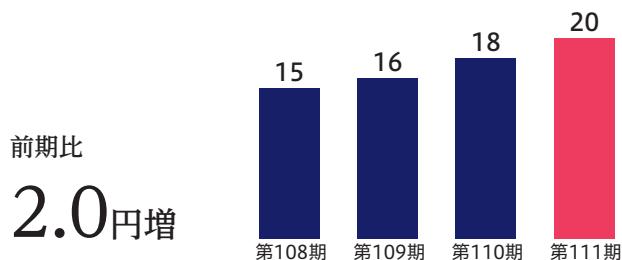
○ 親会社株主に帰属する当期純利益

1,118百万円 (単位：百万円)



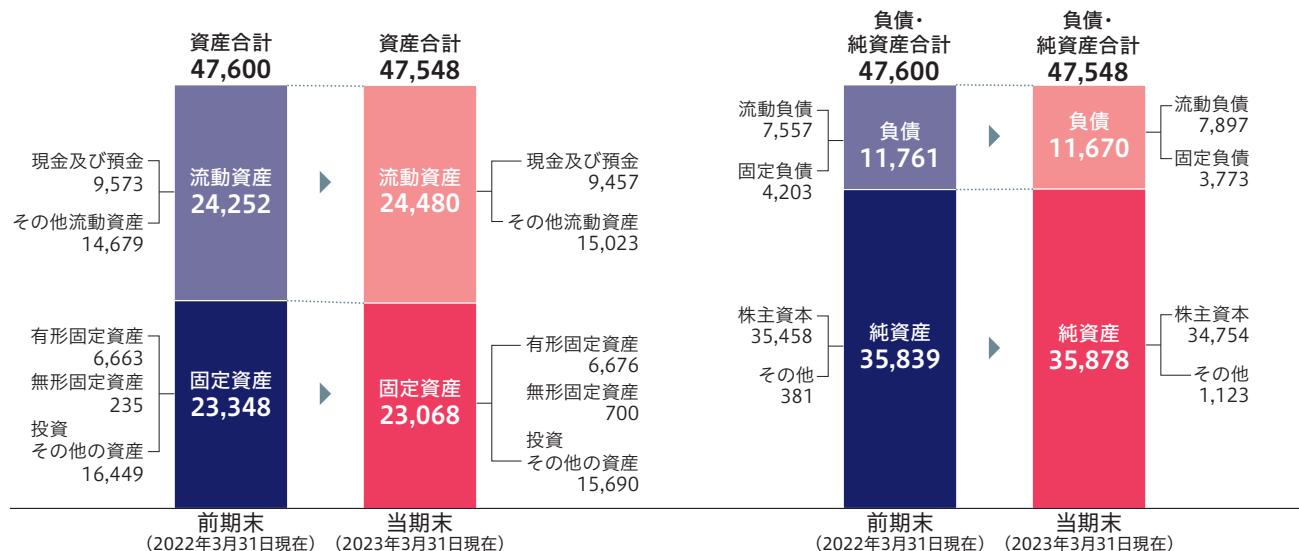
○ 1株当たり年間配当金

20円 (単位：円)

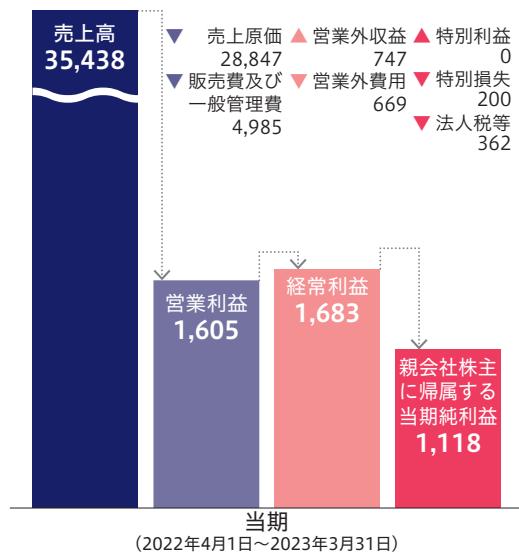


● 連結決算概要

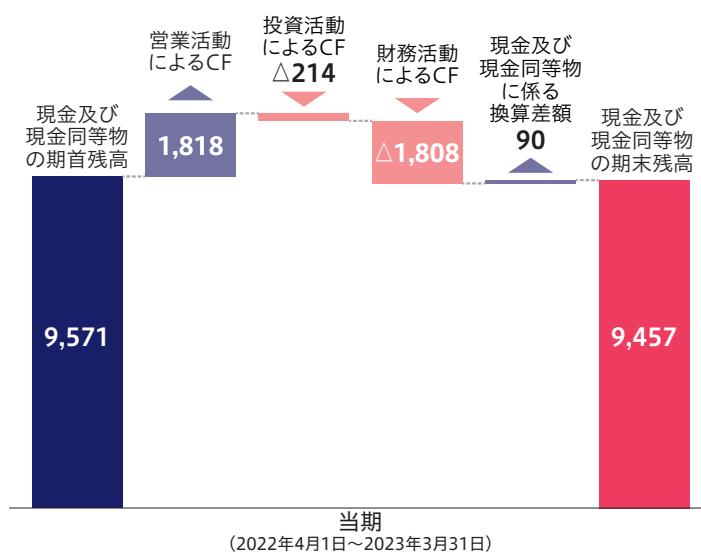
○ 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



○ 連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



○ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



株式情報

発行済株式総数

43,140,999株

株主数

5,808名

所有者別分布状況

個人その他	金融機関	その他の法人	外国法人等
7,963千株 (18.46%)	13,479千株 (31.24%)	11,764千株 (27.27%)	6,479千株 (15.02%)
	証券会社 469千株(1.09%)	自己株式 2,983千株(6.92%)	

大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東レ株式会社	3,749	9.33%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,507	8.73%
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LTD.	2,891	7.20%
株式会社北國銀行	2,001	4.98%
小松マテーレ松栄会	1,629	4.05%
日本生命保険相互会社	1,284	3.19%
株式会社北陸銀行	1,263	3.14%
三井住友信託銀行株式会社	1,230	3.06%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	960	2.39%
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SPECIAL OMNIBUS SECS LENDING ACCOUNT	934	2.32%

※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-782-031

URL <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

1単元の株式の数 100株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)
<https://www.komatsumatere.co.jp/ir/investor/>
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行います。

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

会社情報

役員 2023年6月23日現在

代表取締役社長 佐々木久衛 社外取締役 大西 洋 監査役 米澤 和洋
代表取締役専務 中山 大輔 社外取締役 山下 修二 社外監査役 根上 健正
常務取締役 松尾 千洋 社外取締役 佐々木康次 社外監査役 坂下 清司
常務取締役 小川 直人 社外取締役 堀内 節郎
取締役 米谷 俊泰

【表紙の写真】

ファブリックラボラトリー「fa-bo(ファープ)」にある当社のファブリックアーカイブです。当社が1980年から現在まで開発してきた約5万点の生地サンプルが並びます。これらの生地はファッション性と独創性にあふれ、世界のトップブランドにも採用されてきました。

当社のアイデアと加工技術を詰め込んだ空間は、生地がつけられたその時その時のトレンドが感じられ、新たな開発のアイデアを探る場所としても活用しています。

会社の概況

商号 小松マテーレ株式会社 大阪営業所 大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号
設立年月日 1943年10月8日 (ハービスENTオフィスタワー8階)
資本金 46億8,042万円 東京営業所 東京都中央区銀座3丁目10番6号
本社 〒929-0124 (マルチ銀座第3ビル4階)
石川県能美市浜町ヌ167番地 北陸営業所 石川県能美市浜町ヌ167番地
本社製造部 同上 (小松マテーレ株式会社 本社2階)
美川製造部 石川県白山市鹿島町1号7番地1

グループ会社

小松美特料(蘇州)貿易有限公司 中国・江蘇省蘇州市 インターリンク金沢株式会社 石川県金沢市
株式会社コマクソン 石川県能美市 吉田産業株式会社 福井県鯖江市
株式会社コマツインターリンク 石川県能美市 株式会社セイホウ 栃木県足利市

小松マテーレ株式会社

<https://www.komatsumatere.co.jp/>

